

# 今、子どもたちに起こっていること

～地域活動を通して子どもたちに寄り添いながら～



浪速子ども食堂「チェリー」  
代表 谷口 英代

# 地域の概要

- 約2000世帯、3700人程度



- 生活保護世帯が 4 割
- 地域の小中学校の約半数が要支援
- 小学校児童の 4 分の 1 がひとり親

# 地域での活動

きっかけは？



学習ルーム「コスモス」



「高校に行きたい・・・」 「勉強する場所がほしい・・・」

2013年12月、ある不登校の中学3年生の一言から・・・

「地域で何とかしてやりたい!!」と想い・・・

学習支援ルーム「コスモス」をつくった

年数を重ねていくうちに

子どもたちの他の課題が見えてきた

「勉強」だけではない

「友達関係」、「家庭環境」など…

中学生だけじゃない

小学生も同じ

「つながり」を深めようと…



2016年9月21日

浪速地域 寄り添い型

🍒 子ども食堂「チェリー」🍒  
オープン



食堂でのようすと学校でのようすを情報交換し、  
子どもたちや保護者に適切な声かけ。

⇒ 「寄り添う」姿勢を忘れずに！

【学校や先生への要望】

- ・最新の家庭状況の把握（特に、登校時）  
顔色や表情、あざや傷がないかどうか
- ・子どもたちへのあたたかい声かけ
- ・関係諸機関との情報共有



# 胃袋 地域が満たす

新型コロナウイルス 続く休校



## 大阪の子ども食堂「居

新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、「子ども食堂」の休止が全国的に相次ぐ。感染リスクを抑えるためだが、「こんな時だからこそ」と地域のネットワークを駆使して助け合い、困りごとを懸念する家庭や共働き家庭の子たちへ食事を届ける動きもある。

小中学生を対象にほぼ毎日開かれている子ども食堂。大阪市浪速区で5日、梅田麻衣子撮影

コロナ禍が貧困家庭を直撃

全国の子ども食堂や地域活動が中止

子ども支援はやめられない

### 全国は8割中止

全国的には、やむを得ず休止する子ども食堂が大半だ。全国の子ども食堂の対応状況は、NPO法人「全国子ども食堂支援センター」の調査によると、全国約3700カ所（2019年10月時点の把握数）のうち8割以上が中止しているとみられると

同センターの調査課理事長は「子ども食堂の開催を中止する代わりに、食費利用者に食料や弁当を提供するケースも多い。ニーズが高いレトルト食品を企業などが必要とする家庭に寄付するなど、社会で協力し合えることが望ましい」と話している。

### 家に「主張

「村長が感染防止を主張し、子ども食堂の開催について賛否をめぐらしている。一方、感染拡大の可能性があるという声もあがり、子ども食堂の開催が難しい状況にある」と話している。

### 最後は屋外で

大阪・子ども食堂の運営者らは、感染拡大を懸念し、子ども食堂の開催が難しい状況にあると話している。中には屋外で食事を提供するケースも出てきているという。



4月10日(金)  
2020年(令和2年)  
発行所 大阪府大阪市浪速区  
〒545-8501 梅田麻衣子  
毎日新聞大阪本社

# 気

新型コロナウイルス  
CU休業要請 調  
国会 テレワーク機  
全地域 景気判断下  
メルケル首相 再び  
開かれた新聞委員  
自宅トレーニング  
愛知が緊急事態  
出前還元 在宅保  
NEWSLINE  
仮設4年 見え

# テイクアウト方式 個別家庭訪問による配食



家庭環境が浮き彫り  
虐待リスクやヤングケアラー

- ・多くは、「**家庭環境**」に起因している。



「**社会システム**」 救済措置等の情報が得られにくい など  
「**経済格差**」 コロナ禍での失業 など  
「**貧困の負の連鎖**」 親もそのような境遇で育った など

→子どもたちが「虐待を受けている」、「ヤングケアラー」などの状況に陥る。

子どもたち、保護者にも心理的、経済的なサポート

# 浪速地域のヤングケアラーの実態

障がい

ひとり親の家庭

ネグレクト

精神疾患  
依存症

兄弟が多い  
幼い



外国にルーツ  
がある

# 浪速地域のヤングケアラー支援のネットワーク

学 校

校長・担任  
スクールカウンセラー

区役所

子どもサポート・SSW

子ども相談  
センター

ヤングケアラー

民生委員児童委員

社会福祉協議会

子ども食堂チェリー  
(学生ボランティアも活躍中)

人権推進団体

警 察

地域活

共有・連携・協働

## いろいろなことがあります…、やってよかったこと

- ・課題を抱えた子どもとつながることができた。
- ・地域の大人と子どもの距離が近くなってきている。



**地域の子ども食堂が  
家庭のリビングのような  
あたたかい場所であり続けたい。**

「地域の子どもは地域で育てる」という思いをもとに

私たちの願いは…



地域を誇りに思い、地域（社会）で自立した大人になってほしい。

**伴走型寄り添い支援**

A photograph showing two men standing behind a dark wooden folding table. The man on the left is wearing a yellow t-shirt and dark pants, and the man on the right is wearing a blue and white striped t-shirt and dark pants. Both men have their arms raised and hands together in a traditional Japanese bowing gesture. On the table in front of them is a white bottle of hand sanitizer. The background consists of a large glass sliding door leading into a room with a green chalkboard and various items on the walls. To the right of the door, there is a vertical poster board with several notices and a sign at the bottom that reads '浪速地域' (Naniwa Area).

ご清聴ありがとうございました。